

論文番号 87

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Moderate alcohol consumption and fibrinolytic factors of pre- and postmenopausal women

閉経前、後の女性における適度なアルコール消費とフィブリン溶解因子

執筆者

Sierksma, A., Martijn S. van der Gaag, Schaafsma G., Kluit C, Bakker. M., Hendriks. J. HenkF

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Nutrition Research 21 171-81 (2001)

キーワード

適切なアルコール消費、フィブリン溶解因子、閉経前後の女性

要旨

適度なアルコールの消費は心臓疾患のリスク低減と関連がある。男性を用いた以前の研究は適度なアルコールの消費がリポ蛋白質代謝と恒常性に影響を与えることが報告されている。経口避妊剤を用いている閉経前の女性と閉経後の女性において、三週間夕食とともに赤ワイン又は赤色のグレープジュースを摂取してもらうことによるフィブリン溶解因子に与える効果についての検討を行った。3週間後、夕食を開始する1時間前から15時間後まで、2又は4時間間隔で血液採取を行った。経口避妊剤を用いている閉経前の女性において適度なアルコールの摂取はフィブリン溶解因子にほとんど効果はなかった。閉経後の女性ではフィブリン溶解活性はアルコール摂取後急激に減少した。血漿プラスミノゲンインヒビター活性は23.1IU/mlに増加し、血漿組織型プラスミノゲン活性化因子(tPA)の活性は0.9 IU/molまで減少した。このフィブリン溶解活性の減少の結果とともに血漿プラスミンアンチプラスミン(PAP)複合体レベルも148 µg/lまで減少した。翌朝、フィブリン溶解活性は増加し、プラズマtPA活性も0.44IU/molまで増加した。これらの結果、適度なアルコールの摂取後の閉経後の女性におけるフィブリン溶解活性の応答は中年男性で行われた研究と非常に類似する結果になった。